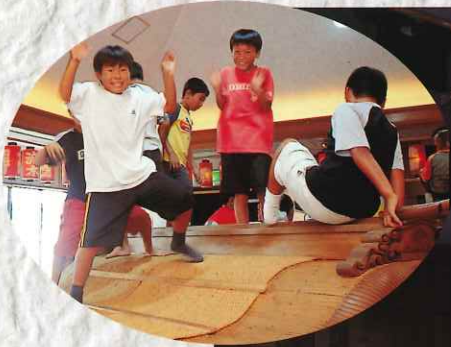


ボランティア OSAKA



お祭りの安全
NPOが支えます!



特定非営利活動法人「岸和田だんじり祭振興会」による
「遊んで学ぼうだんじり祭」イベント (P15に記事)

第26号

2001
AUTUMN

●発行●

(福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・市民活動センター

特集

府民のボランティア活動を幅広くサポートする
大阪府福祉基金 (地域福祉振興助成金)

●市町村ボラ連「Vサイン」No.15

府民のボランティア活動を 幅広くサポートする

大阪府福祉基金（地域福祉振興助成金）

昭和55年のスタート以来21年間、多くのボランティア団体や福祉事業をサポートし続けてきた「大阪府福祉基金」。

今回は、大阪府健康福祉部・地域保健福祉室地域福祉課の山野忠さんにお話を伺いながら、この制度の中の「地域福祉振興助成金」についてご紹介していきたいと思います。

総額7300万円を、
336団体に助成（平成13年度）

「大阪府福祉基金」は、大阪府からの拠出金と府民からの寄付金をもとに、府民の社会福祉活動の振興を目的として昭和55年に設立されました。積み立てられた基金の運用益等を財源とし、「地域福祉振興助成金」として府民が行う自主的なボランティア活動や地域福祉活動に助成されています。

この「地域福祉振興助成」は、数多くのボランティアグループ・団体等を支える助成金として大きな役割を果たしています。平成13年度は、総額で7300万円を336のボランティアグループ・団体等に助成しました。金額もさることながら、300以上の団

活動費助成（上限30万円）の対象となる費用

- ・消耗品以外の福祉活動に必要な機器の購入費
- ・高齢者・障害者等と健常者との交流や社会参加のためのイベント等のレクリエーション活動費
- ・府民の福祉意識向上や知識習得を目的とした講演会の開催費
- ・報告書や印刷物の作成などを行う普及・啓発活動費
- ・上記以外に運営委員会が特に必要と認めた経費

※複数の費目について申請可能

体に助成する助成基金は珍しく、大阪の市民活動にとつての大きなサポーターの役割を担っています。さて、助成対象となる活動（フログ

ラム）は別表のもの等に限られています。決定に際しては申請した活動プログラムの内容について、男性5名、女性4名の計9名の学識経験者等で構成されている「福祉基金運営委員会」による審査が行われます。

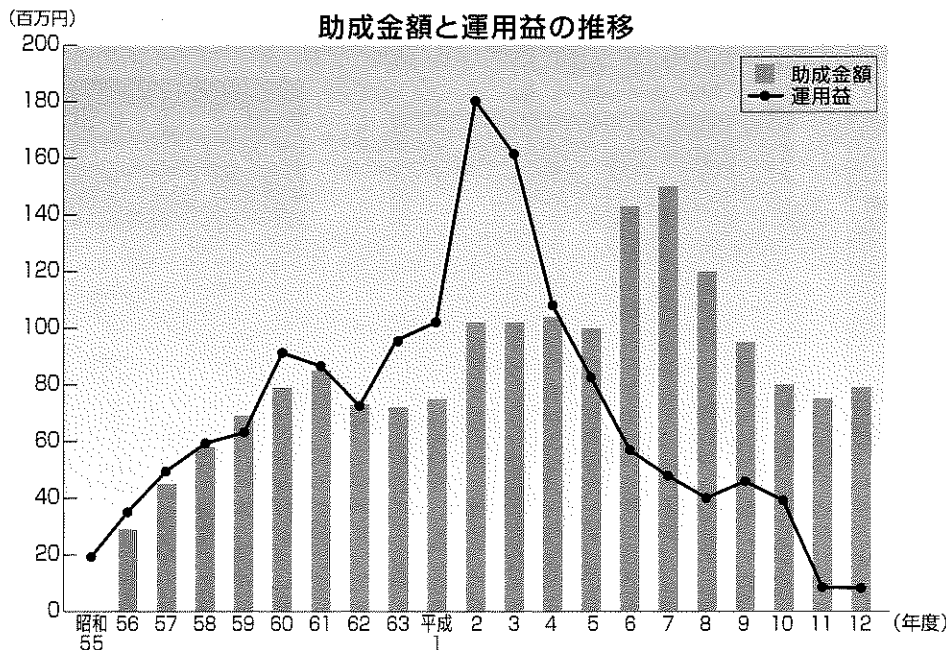
「当基金では、他の助成金では数少ない障害者のキャンプ等レクリエーション活動にも助成しています。障害を持つ人にとつて、こうした活動は単なるレクリエーションではなく、社会参加や自立促進の意味を持つ大切な活動の一部だと考えるからです。このような活動を支援する制度はまだ少ないのが現状のようなので、当該団体の皆さんからは喜んでいただいています」と大阪府健康福祉部・地域保健福祉室地域福祉課の山野さん。



大阪府福祉基金について説明される
山野忠さん

また、こうした大阪府福祉基金の助成が、それを受けるボランティア団体にとつて次の取り組みへのステップアップにつながっているのも間違いなく、「助成金の交付が済んだあと、ボランティア団体の方から『おかげさまで活動に役立たせていただきました』と、お礼のお電話をいただくこともあり、そんなとき、この基金が各グループの活





ニーズに対応して、 今年度より大幅に制度を改正

しかし近年の不況により、この基金も年々厳しい状況に追い込まれているのが実状のようです（グラフ参照）。制度開始後、数年間は好調だった運用利

動を通じて高齢者や障害者のために役立っているんだということが実感でき、本当に嬉しいものです」とも山野さん。

益も、バブル経済がピークに達した平成2年度を境に金利が著しく低下。その額は助成金額を大きく下回るようになりしました。そのため、毎年不足額が生じています。また制度開始以降の積立額累計についても、平成8年度以降は取り崩しが行われています。「事実、平成13年度の助成金は申請額から一律の割合で削減して交付せざるを得なかったこともあり、財源の確保はこの制度の大きな課題。運用益が伸び悩む今となつては、府民の皆さんからの寄付金が必要な支えです。ぜひご協力していただきたいと思っています」と山野さん。

同基金へ寄せられる寄付金には、個人からのものに加えて、各企業や団体が行う募金活動やチャリティー活動によって集められたものも少なくありません。「だからこそ、限られた財源で最大の効果につながる助成でなければならぬ」と考えています。そこで今年度からは制度を改正し、助成を受ける団体が活動を実施しやすいようにとの配慮から、申請から交付までの期間を短縮。また昨年度までは一年以上の活動実績がない団体は助成対象外となつて

いました。その枠を取り外し、初めてボランティア活動に取り組む団体でも申請することが可能になりました」とも。さらに、この制度を府民がより身近なものと感じ、利用しやすいように、いままでは公開されなかった交付

基準の開示も始まったとか。こうした「利用しやすい」を今後も追求しながら、「ボランティア活動に取り組む多くの方々の意欲を大切にし、高齢者や障害者の方々が生きがいを感じ、自立できる福祉社会の実現を目指していきたい。景気の低迷は回復する傾向になく、まだまだ厳しい時期は続くと思われるが、今後も府民の皆さんからのご理解とご協力をいただきながら、よりよい制度づくりに励んでいきたいです」と山野さん。

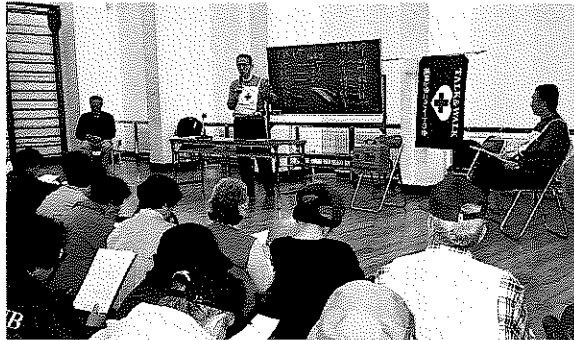
堺市でも 「地域福祉活動助成」で 市民活動を応援



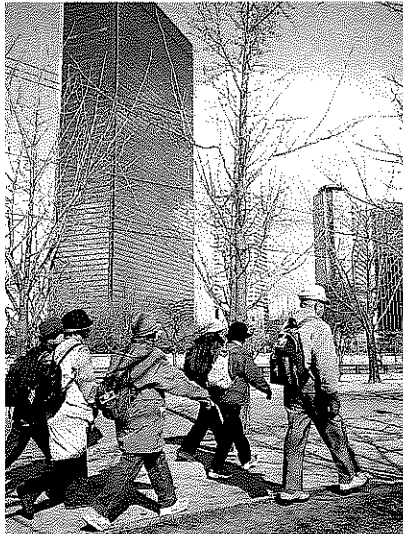
堺市においても、「地域福祉活動助成」という制度があり、年に2回、福祉のまちづくりをめざした市民の自主的な取り組みを応援しています。助成の対象となる活動は「地域福祉活動の土台づくりとなる活動」「福祉の問題について考えたり広げていく活動」「援助が必要な方々の福祉を高めていく活動」等ですが、具体的には地域での講演会、介護技術の学習会、福祉関連の実態調査、お年寄りのための料理教室、障害児の訓練キャンプ、車椅子ガイドマップづくり等で、堺市が設置する「地域福祉推進基金」の果実が活用され、堺市社会福祉協議会が運営を担当しています。毎年4月と9月に募集があり、助成金額は一件につき最高100万円まで。単年度内に終了する活動が助成の対象になります。ただし、以下は対象外となっています。

- ・公（国や府や堺市）の補助や助成を受ける活動（たとえば法人等が本来の事業として行うべきもの）
- ・現金や物品を直接配布する活動
- ・団体やグループのふだんの管理的な費用

毎回、医師による講演会も大好評。参加者は皆、熱心に耳を傾けます



歩くことを楽しみながら健康づくり。
全員、元気良くゴールしました



基金が支える
ボランティア団体と
その活動

ウォーキングを広め、健康づくりを提唱

NPO法人 医師と歩こうハートの会

ウォーキングは心肺機能を高め、持久力や抵抗力を強くする有酸素運動のひとつ。他のスポーツと比べて身体への負担が少なく、いつでもどこでも気軽に始められるので、ブームとなっています。

そんな中、「医師と歩こうトーク&ウォーク」と題した日帰りウォーキングツアーに取り組んでいるのが、NPO法人・医師と歩こうハートの会。歩くことを通じて、高齢者や病後のケアに悩む人たちの健康づくりを支援しています。

この催しは、年5〜6回、大阪、京都、兵庫などを中心に行われており、毎回、ウォーキングと医師による健康をテーマにした講演会がセットになっているのが特徴。講演会終了後、地域の名所旧跡などを散策しながら、みんなでゴールを目指します。

同会の発足は平成4年。大阪府八尾市在住の内科医師、萩原隆さんが発起人と

なり、医師会のメンバーや患者さんらに呼びかけて活動が始められました。

「現会長である萩原医師は、自ら心筋梗塞に倒れた経験から、病気の予防や体力づくりの大切さを再認識。この会を起ち上げました。実は私自身も心筋梗塞の経験者。大病をして初めて日頃の健康管理の大切さを痛感し、ウォーキングを始めました。ジョギングやマラソンだと続けるのはなかなか難しいですが、歩くという運動は日常生活の中にも簡単に採り入れられ、体力の弱ったお年寄りや病後の人たちの健康づくりに最適なんです。そういう方たちに、ウォーキングをもっと広く浸透させることが当会の目的です」と副代表理事の鈴木邦治さん。

会費は1回につき500円。参加者は大半が高齢者ですが、関心があれば誰でも気軽に参加することができます。時には障害を持つ人が車椅子で参加することも。

「他の団体が行うウォーキングツアーでは時速6kmのスピードで歩くのが常ですが、当会では時速4〜4.5kmと、ペースダウンして歩くようにしています」

と鈴木さん。

毎回、事前に必ず看護婦さんが血圧測定を行い、その日のコンディションをチェック。これは必要であれば、随時行われます。そしてツアー中は、ウォーキングの愛好家が常時20名程度付き添い、正しい歩き方や参加者それぞれに合わせた歩行ペースを指導。講演会の講師を務めたお医者さんと一緒に参加するので、歩きながら日頃気になっていることなどを相談できます。

このように、誰でも無理なくウォーキングが楽しめるようさまざまな配慮がなされている同会のツアー。年々、人気が高まっており、去る2月25日には、235人が参加しました。この日は「脳の老化について」と題し、大阪医科大学の武内敦郎教授による講演会も行われました。

「しかし、毎回これだけの人数が参加するイベントを実施しようとすると、当然それなりの費用がかかり、会費収入だけではなかなか賄いきれません。そこで前回は、講演会の講師料、会場費、開催告知の印刷物の経費などに、大阪府福祉基金を大いに活用させていただきました」。

これまでは都市部での開催が中心でしたが、ウォーキングを広めるためには、遠方から参加する人たちの交通費や体力的負担を軽減し、もっと気軽に参加できるようにすることが今後の課題だといいます。今回の助成金利用をきっかけに、新しい展開が期待できそうです。



フェスタのオープニングセレモニー

基金が支える
ボランティア団体と
その活動

「順調なスタートは福祉基金のおかげ」 茨木市に大規模な子育てネットワーク誕生

子ども “わいわい” ネットワーク茨木

「子育てに悩む親子のかけこみ寺のよう
な存在になればと思います」と、
子ども “わいわい” ネットワーク茨木
(以下わいわいネット) 事務局長の前田
徳晴さん。

わいわいネットは、子育て支援と虐待
防止を目的に平成12年9月に設立さ
れた民間団体。茨木市内にある3つの
児童養護施設が呼びかけて、私立保育
園連盟、民生委員児童委員協議会、更
生保護婦人会と共に子育て支援ネット
ワーク事業をスタートさせました。協
力団体として、府子ども家庭センター、
府民健康プラザ(保健所)、市児童福祉
課・保健医療課・教育委員会・社会福
祉協議会、青年会議所などの幅広い団
体が協力。民と公が力を合わせて管轄
や所属といった垣根を超え、乳幼児1
8歳までの子育てをトータルで支援し
ようという画期的な取り組みが注目を
集めています。

その設立を広く市民に知ってもらお
うと、大阪府福祉基金の助成を受けて、
12月に「子ども “わいわい” フェスタ
茨木」を、翌年2月には「子ども “わ
いわい” フォーラム」を開催。当時を



「子ども “わいわい” フェスタ茨木」には市長と市議会議長も出席

振り返って「福祉基金の助成申請が
認められた」という、そのこと自体に
大きな意味があったと思います」と前
田さん。「誤解を恐れずに言えば、これ
はつまり “私たちの活動が府に認知さ
れた” ということ。おかげで対外的な
信用も得やすく、非常に順調に活動を
広げていくことができました」と、大
阪府福祉基金助成のもうひとつの意義
を語ります。

現在の活動としては、児童養護施設

が実施している365日24時間対応の
電話相談「子育て110番」、育児不安
やドメスティックバイオレンスに悩む
親子のためのショートステイ、自由に
利用できる「遊びの広場」などを市民
に紹介し、利用促進をはかっています
が、さらに今年度の重点として、市内
3養護施設を中心とした3ブロックを
拠点に、さらに小グループに分けてわ
いわいネットの日常活動の中心となる
「地域に密着した子育て支援」について
の研修会を、児童委員や更生保護婦人
会の方々と精力的に実施。「安心して子
育てができる茨木市」を目指すわいわ
いネットの活動は、いよいよ本格的に
始動しつつあります。



ビエロのおじさんのバレーンアートは子どもたちに大人気

基金が支える
ボランティア団体と
その活動

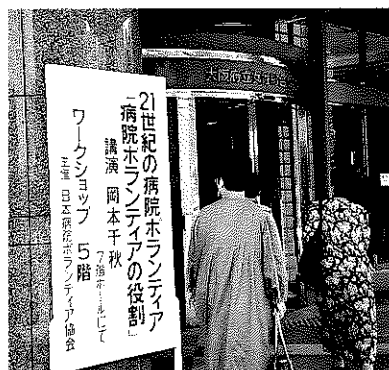
病院ボランティアの普及を推進する 講演会を開催

特定非営利活動法人 日本病院ボランティア協会

去る5月29日、「21世紀の病院ボランティア」と題し、病院ボランティアの推進と理解を深めるための講演会とワークショップが大阪府立総合女性センター（ドーンセンター）で開催されました。これは、特定非営利法人・日本病院ボランティア協会の主催によるものです。

5年前から毎年行われているこのイベント。年々、参加者も増え、この日は全国各地から病院ボランティアに関心を持つ61病院、161名が参加。「当協会は全国組織で運営しておりますので、このようなイベントを開催する時は参加者も多く、会場の手配にはいつも頭を悩ませています」と話されるのは、事務局の信田禮子さん。

今回は、大阪府福祉基金の助成金が会場費に充てられましたが、助成を受けたことにより、大きな会場での開催が実現。「講演会は当協会の岡本千秋理事長によ



今年、現理事長の社会学博士・岡本千秋さんが「病院ボランティアの役割」をテーマに講演

るものでしたが、参加者の皆さんは、最後まで熱心に耳を傾けておられました。続いて行われたワークショップでも白熱した議論が飛び交い、例年よりさらに充実した催しになりました」と信田さん。

そんな同協会の歴史は古く、1962年に淀川キリスト教病院で活動をスタート。以来、病院ボランティアの全国的な普及に力を注いできました。1974年、病院でボランティア活動をする34グループが加盟する連合組織として協会を設立。以後ボランティアグループと連携しながら、活動を展開しています。現在、同協会に加盟している病院ボランティアグループは全国で149グループ。そこでは

6500人ものボランティアたちが活躍中です。

しかし、今日に至るまでには、さまざまな変遷がありました。

「病院ボランティアとは、医師や看護婦とは違った視点から、患者さんやその家族をケアする活動です。でも発足した当時は、医師と患者が相互理解を図りながら治療を進める『インフォームドコンセント』も今ほど重視されておらず、患者の立場や気持ちに細かく配慮した治療をする病院は少なかった時代。そんな状況のなか、初代会長の産婦人科医師、故広瀬夫佐子氏は、たった3人のボランティアと共に活動を開始しました」と信田さんは当時のことを話されます。

病院ボランティアについて語ろう



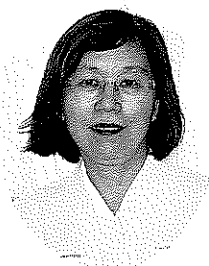
13のグループに分かれて行われたワークショップでは、さまざまな意見や情報が交換されました

当初は病院ボランティアの受け入れについて、なかなか理解されなかったといいますが、広瀬医師らの熱意と地道な活動が功を奏し、それに賛同する声は次第に高まってきました。やがて、主婦層を中心に活動をする人が着実に増加。

「病院ボランティアの活動は、受付でのフォロワーから車椅子や歩行の介助、タオルやおしぼりなどの衛生材料づくり、入院患者の話し相手、食事・入浴・清拭などの手伝い、手紙の代筆、子どもの遊び相手にいたるまで実に幅広く、ボランティアが患者さんやその家族にしてあげられることは、数え上げたらきりがありません。しかもこうしたケアは、物理的な面だけでなく、精神的な面でも大きな支えになっているんです」と信田さん。

そして時代は移り変わり、病院のあり方や患者への接し方が改めて問われるようになったいま、病院ボランティアに対する関心度はますます高まっていく一方です。最近では、まだ協会に加盟していない病院や活動を始めたいと思っている人からの問合せが相次いでいるといいます。

「少子高齢化にともない、高齢者や病人の介護を家族だけでは支えきれないときがいずれやってきます。将来的には、病院ボランティアの必要性がもっともっと叫ばれるようになってくるでしょう」とも信田さん。同協会では、こうした講演会・ワークショップの開催数を増やし、さらに普及活動を展開していきたいとのこと。

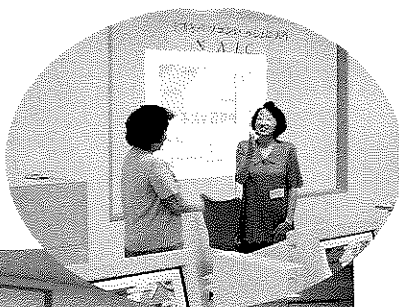


「最近では病院からの問合せが増えて、嬉しい悲鳴を上げています」と事務局の信田禮子さん



事務局では、多くのコーディネーターが会員のボランティア活動を支援

受講者に大好評だった今回のパソコン講座。次回の開催が待ち望まれています



基金が支える
ボランティア団体と
その活動

手話学習を組み合わせた ユニークなパソコン講座を開催 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ(NALC)

「もともと、定年退職者や子育てが済んだ主婦など、高齢者の社会参加を目的に発足しましたので、会員の平均年齢は62歳とシニア層が中心。そのため、ボランティア活動だけではなく、ハイキングや麻雀教室、料理教室、趣味の会など、心身共に若さを保つためのさ

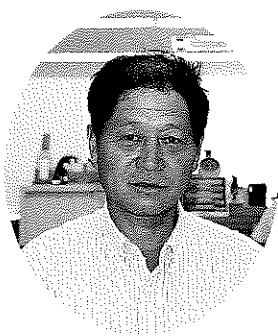
高齢者介護や子育て支援など、会員同士の相互扶助によるボランティア活動を行っているニッポン・アクティブライフ・クラブ(以下略称・NALC)が、会員がボランティアでサービスを提供した時間を1時間1点として会に預託しておき、自分がサービスを受けたくなった時、その点数に応じて無料でサービスが受けられ

さまざまな催しも行っています」と話されるのは、事務局長の山本憲治さん。

さらにホームヘルパー養成講座やボランティアコーディネーター養成講座、介護教室や高齢者疑似体験など、実際の活動に役立つ数々の講座も実施しています。

そして、こうした取り組みのひとつとして開催されたのが、「手話とパソコン・いっしょに入門講座」。これは、手話学習ソフトを使って手話とパソコンの基本操作を同時に習得しようというものですが、今回初めて大阪府福祉基金を活用し、会場や講師の手配、教材として使われた手話学習ソフトの購入など、講座開催に必要なすべての費用に助成金を利用されました。

「内容の充実した講座を開催するためにはそれなりの費用もかかりますが、助成金のおかげで設備の整った会場を借りることができましたし、専門の講師に来ていただくこともできました。会員さんにも無料で受講していただくことができ、個人的な負担をかげずに済み、たいへん好評でした」と山本さんはこやかに話されます。



「これから定期的なイベントを展開していきたい」と事務局長の山本憲治さん

今回は、6月7日、12日、20日、27日の4日間にわたって行われ、1日の講座で約30名の会員が参加しました。手話の講習については外部から専門の講師を招き、パソコンの操作については基礎知識を持つ会員がフォロー。

「パソコン上達の近道は、理論よりも実践……というわけではありませんが(笑)、パソコン経験の少ない高齢者には、実際にソフトを使って操作していく方がだんぜん覚えやすい。それに以前、うちのメンバーがモニターになったという経験もあり、ボランティア活動に役立つ手話とパソコンを組み合わせると面白いかもしれないと企画しました」と山本さん。

今回の講座は初めての試みだったということですが、早くも次回の開催を待ち望む声が上がっており、助成を受けたことでNALCの活動内容はもう一段ステップアップした様子。これを機会に今後は会員以外の参加者も募り、全国的に講座を開催しながら高齢者の社会参加を促進していきたいと意欲的です。

ダルメシアン種の「サリー」は、みんなの人気者。
愛嬌を振りまき、フエスト会の活動に貢献しています



中之島公園の清掃活動に励むメンバーの皆さん

私たちも
大阪府福祉基金を
支えています

21年間にわたる毎月の街頭募金活動で 福祉基金をサポート

フエスト会

「募金活動に協力してください！」
「大阪府福祉基金に皆さまのご寄付を！」。7月のある猛暑の一日、募金箱を手に、汗を拭いながら街頭に立つお年寄りたちの声が響きわたります。

この活動を行っているのは、「フエスト会」の皆さん。この会は昭和55年、大阪府老人大学第一期生の有志10数名によって設立されました。フエスト会の名は、当時の老人大学の専攻科目だった福祉科のF、園芸科のE、手芸科のS、陶芸科・体育科のTからつけられたもの。「Faithful Elder Service Team＝高齢者社会奉仕チーム」という意味も込められています。

「活動を通じて社会の役に立ちたい」という会のモットーは、設立以来変わることなく貫かれています。

会員数は213名。毎回6つの班に分かれて、キタやミナミ、アベノ、泉ヶ丘、千里中央など、

府内6ヶ所で募金活動を行っており、毎月1～2日間、通常で7～8名、多いときで20数名のシニアたちが募金箱を抱えて街頭に立ちます。これらの収益金は、すべて大阪府福祉基金へ。さらにこれ以外にも、阪神大震災やインド大地震の時などに、NHK（日赤）、ユニセフ等への寄付も行ってきました。また月1回、中之島公園を清掃するなど、環境美化運動にも積極的に取り組んでいます。

会員は全員、老人大学の修了生。平均年齢は76歳で、最年長はなんと93歳。「立ちっぱなしの数時間は辛くありませんか」とお尋ねしたところ、「確かに暑い時も寒い時もあります、中には『苦勞さまで』と丁寧に声をかけてくださる方もいて、そんな時は世の中の役に立っているという感じが実感でき、嬉しいですね。高齢期になるとつい自宅に閉じこもりがちですが、こうして外に出て活動していると、むしろ気持ちが張りつめて、かえって若返りますよ」と85歳になる会長の林誠さんは、笑顔で話されます。

会員の中には、会の活動以外にもボランティアに携わっている人も多く、



フエスト会のみなさん

皆さん充実したシニアライフを満喫している様子。取材当日も37度を超える暑い一日でしたが、ひとりとして表情をこわばらすことなく、いきいきとしていました。また最近では、会員の長井つよしさんが愛犬のダルメシアン、「サリー」を連れて参加。募金箱の前におとなしく座るサリーを見て、行き交う人たちが「可愛いねえ」と思わず足を止めます。サリーを囲んでなごやかに談笑しながら募金を受け付けている姿が印象的でした。

こうした地道な活動を、21年間にわたって積み重ねてきたフエスト会。長年の募金活動により、大阪府福祉基金等へのこれまでの寄付金累計額は3千万円以上。「福祉は実践なり、継続なり」という言葉を見事に体現しています。



営業統括部長・泉谷佳孝さん



毎年、さまざまな催しが盛りだくさんの「スマイルフェスタ」

私たちも
大阪府福祉基金を
支えています

チャリティー活動（スマイル洗車）の 収益金を寄贈

大阪トヨタ自動車株式会社

大阪トヨタ自動車（株）では、毎年3回、4月・8月・12月に、府下43の支店でお得意様を対象とした「スマイルフェスタ」というイベントを開催。土曜・日曜の2日間、車の点検やタイヤ、各種オプションのバーゲンセールなどを行い、毎回、全支店合わせて5千組近い来場者で賑わっています。

そしてこのイベント期間中、併せてチャリティー活動を展開。「スマイル洗車」と呼ばれるこの活動は、お得意様の車を洗車して募金してもらい、その収益金を寄付して福祉に役立てようというものです。

同社は平成8年より緑の募金活動を行い、自然環境保全や緑化活動を行う「（財）大阪みどりのトラスト協会」へ寄付してきましたが、昨年4月よりさらに福祉活動へも支援の枠を広げようと、大阪府福祉基金へ寄付するようになりました。

「弊社は数年前から福祉車輛も取扱っており、障害を持つ方や高齢者の方が安心して健やかに暮らせる街づくり、社会づくりに対する認識が社内に深まってきておりますが、実はチャリティー

活動を始めたのも、企業として、もっと身近な所から社会に貢献したいという社員の声があきつかけでした」と営業統括部長・泉谷佳孝さん。「100円から」という金額設定が良かったのでしょいか（笑）、そのくらいでお役に立てるならと、お客様の評判も上々です。中にはそれ以上の金額を差し出してくださる方もいて、皆さんのあたたかいご協力のおかげでこのチャリティーは成り立っていると思っています」。

車椅子の人でも気軽に利用できるようにと、昨年は、寝屋川支店と茨木支店の店内の一部をバリアフリーに改装したという同社。今後も福祉社会の充実を願い、全支店のバリアフリー化を計画中です。



今年の8月も「スマイル洗車」を行い、収益金を寄付しました



Hello! ボランティアセンター

枚方市ボランティアセンター

枚方市新町2-1-35
枚方市立総合福祉会館 ラポールひらかた4階
TEL 072 (841) 0181
FAX 072 (841) 0182

ボランティア経験の豊富な市民アドバイザーが活躍中

京阪・枚方市駅より徒歩3分の所にある「枚方市立総合福祉会館 ラポールひらかた」。平成10年にオープンしたこの施設は、採光を充分に考えた明るくモダンな4階建て。福祉機器展示コーナーやデイサービス施設、温水プールや研修室など、最新の多種多様な設備を整え、広く市民に開放しています。

この中の4階フロアーが枚方市ボランティアセンターで、ここでは昨年7月から「ボランティアアドバイザー」が活躍しています。アドバイザーは全員で10名。社協会長から委嘱された市民が平日の10時から16時まで、1日2名ずつローテーションで配置され、ボランティアを始めようと思っている人や活動中の人たちの相談にあたっています。アドバイザーには、センターなどが開催した「ボランティアアドバイザー養成講座」の受講修了者や活動経験の豊富な人たちが携わっていますが、「在宅支援や施設訪問、点訳など、さまざまな分野に関わるボランティアが活動経験を生かし、同じボランティアの立場で共感もできる。その利点が相談に生かされています。今後もアドバイザーと共に開かれたボランティアセンターにしていきたい」と、枚方市社協職員の赤阪さん。

活動に必要な機材の使い方や貸出から、ボランティア活動中の対人関係の悩みにいたるまで、アドバイザーたちは皆、熱意を持って相談に対応しています。

「アドバイザーという役割を1年間経験しましたが、ここに寄せられる相談内容はそれぞれ千差万別。だからこそもっといろんな活動に携わり、自分自

身の視野を広げる努力も必要だと思っています。これ

からもセンターが開催する講座の企画などにもどんどん参加していきたいです」と、あるアドバイザーさん。登録したままなかなか活動に取り組めない人

たちにも積極的に声をかけ、将来的には、ボランティアたちが気軽に集える交流サロンを開けるようにしていきたいということです。

東大阪市ボランティアセンター

東大阪市高井田元町1-2-13
TEL 06-6789-5550
FAX 06-6789-5611

動き出す「勤労者マルチライフ支援事業」

近鉄奈良線「河内永和」駅から北へすぐ、東大阪市立総合福祉センター内にあるのが東大阪市ボランティアセンター。昭和57年11月の開設以来、ボランティア活動の「コーディネート」をはじめ、「教育訓練」「情報提供」「相談援助」「調査研究」など多彩な活動を展開してきました。

平成元年には「東大阪市ボランティア基金」を創設させ、その果実（利息）を、フォーラムの開催や、活動に必要な機材整備などに充当。積立累計額も今や112,288,552円（平成13年3月末）にのぼり、センターの事業を力強く支えています。

また、この7月に20回目を迎えた「ボランティアサロン」（通称あいあいサロン）の活動も活発です。これは平成11年7月に、小地域ネットワーク事業推進者とボランティアの皆さんによる企画から生まれたもので、毎回ゲストスピーカーを迎えて、市民相互の情報交換や交流を目的とする催しです。「毎回、講演だけでなく、ペンシルバールンや手品、折り紙づくりといった、みんなで楽しめるコーナーもつくり、そうした企画から、進行・運営に至るまでを企画委員の皆さんの手づくりでやっている。「素敵な出会いの場」としても、市民の皆さんから好評をいただいていますよ」と所長の吉岡裕子さん。そして、最近の動きとしてぜひ触れなければならないのが「勤労者マルチライフ支援事業」です。これは厚生労働省が提唱する、退職者を含む勤労者のNPOやボランティア活動への参加促進を目的とするもので、府内では他の市町村に先駆けて、東大阪市ボランティアセンターが東大阪経営者協会とタイアップして事業をスタート。これにより、「地域の企業とのパイプを、より太いものにしていきたい」と職員の皆さんは力強く語っていただきました。





名称変更を機に、 「2001年ボランティア国際年 記念フォーラム」を開催

大阪府ボランティアセンターが「大阪府ボランティア・市民活動センター」に名称変更したことを機に、去る7月16日、「2001年ボランティア国際年記念フォーラム」が大阪社会福祉指導センターにて開催されました。府社協松廣屋慎二会長の挨拶に続き、第一部として、全国社会福祉協議会の和田敏明事務局次長が基調講演。「ボランティアセンターの事業を、より幅広く拡大していくための名称変更は全国に先駆けたもの。これを機に、NPO活動を含む多彩な市民活動のサポートセンターとして力強く事業を進められることを期待します」とのメッセージをいただきました。



府社協
松廣屋慎二会長

続いて第二部では、和田次長と、「大阪府ボランティアセンターの総合化に関する基本ビジョン」の作成に携わった桃山学院大学の上野谷加代子社会学部長が対談。和田次長が基調講演で述べられた「ブラットホーム構想」や、「いきいきサロン」「企業の社会貢献活動」など、多岐に渡るテーマで活発な議論が行われました。「ブラットホーム構想」とは、いろいろな活動団体がこの場所（ボランティア・市民活動センター）に停車し（立ち寄り）、市民である乗客との出会いと交流、さら



桃山学院大学
上野谷加代子社会学部長



全国社会福祉協議会
和田敏明事務局次長



に乗車（活動への参加）の機会を大きく広げていこうというもので、上野谷教授も「特急も普通列車も停まるブラットホームにし、生活者との接点を大きく広げていくべき」と、この構想に共感を示しました。さらに上野谷教授は「大阪は民間の活動では歴史と実績を誇る土地柄。NPO法や社会福祉法の制定、教育改革や地方分権といった時代の追い風の中、大阪から新しいムーブメントを起こしていただきたい」と、会場に集まった市民団体の関係者にエールを送りました。

続く第三部は、集まったボランティア団体、NPO関係者の名刺交換会。大阪府市町村ボランティア連絡会・大杉貞子会長の挨拶のあと、なごやかに交流の輪が広がりました。市町村社協の職員も含めて、この日の参加者は約200名。特別プログラム

として、バリアフリー音楽をめざす目瀬純世さんと浜田里香さんによるピアノとバイオリン演奏もあり、記念すべき催しは盛況裏に閉幕しました。

「これだけの多彩な市民活動関係者が結集したのは、おそらく初めて。今日を機に、互いの交流をより深めていきたい」とある参加者が語っていましたが、大阪府ボランティア・市民活動センターとしても、より強力なサポートセンターとしての機能を発揮していきたいと思っています。



大阪府市町村
ボランティア連絡会
大杉貞子会長



河北

障害者ワーキングエリア見学と キャンプ場での交流会

梅雨の真っ直中の6月21日、交野市で河北ブロックの交流会が行われました。この日は障害者ワーキングエリアの見学のあと、キャンプ場でお昼をたべながらの交流会となりました。

エリアには、大阪府交野自立センター、交野松下株式会社、やわらぎ授産所など体の不自由な方の社会参加を促

進するための施設や工場が集まっています。参加者20人が2班に分かれて見学しました。車椅子の方が多く働いておられるバリアフリーの工場、改良された機械や道具類に「知らない世界を見せてもらえてとても有意義だった」「体の不自由な人でも、人間の知恵と意欲で不可能を可能にしていけるものだ」ということがよくわかった」との嬉しい感想をいただきました。

高校生が高齢者施設で 体験ボランティア

今年も、夏休みを利用してたくさんの方が参加した「夏のボランティア体験プログラム」。枚方市にある「高齢者介護サービスセンター・里仁館」には4人の高校生が参加し、お年寄りと交流しました。里仁館は通所・入居の両面から高齢者の介護を行っている支援施設で、数年前から体験ボランティアを受け入れています。

いろいろなクラブ活動が行われていますが、この日は書道教室が行われ、体験ボランティアの高校生たちは福祉専門学校の実習生らとともに参加しました。

上半身が不自由な方のために半紙や墨を用意したり、一生懸命筆を動かすお年寄りに「がんばってくださいね」と声をかけたり…と始めはやや緊張気味だった



取材に伺った日は、入居者のクラブ活動の日。同センターでは絵画・お茶・手芸など、曜日ごとに



北摂

78名の参加で北摂ブロック交流会

6月19日、吹田市民会館にて、大阪府ボランティア・市民活動センターの森所長、吹田市社協の美濃辺事務局長を迎え、

北摂交流会が開催されました。「21世紀は、社会と市民の声を聞かなくては行政施策はできません。府のボランティアセンターがボランティア・市民活動センターと名称変更したのも、そんな意識から。今後とも交流を深めてボランティアの広がりを！」と森所長から挨拶がありました。

続く第一部の交流会では、「ボランティアの情報交換、研修、他市との交流をさらに実施したい」(茨木市)、「NPO法人格を取得したグループもあり、連絡会も転換期を迎えている」

た高校生たちも、少しずつ笑顔でお年寄りに接していけるように。

同センターの森永美枝総主任は、「ボランティアは、まず体験してみることが大切。その経験を通じて、ひとりでも多くの人が私たちの仕事に興味

や関心を持ってくだされば嬉しいですね。また、高齢者介護に対する重いイメージを払拭し、人と人が交流することの温かさや喜びを感じてもらえたら、なお嬉しいですよ」と語ってくださいました。



(吹田市)などの意見表明や、「10年の周年事業としてパスツァーを行った」(摂津市)、「ボランティアのハンドブックを来年2月に発刊予定」などの報告が各代表者からなされました。

第二部では、バイマリーヤンジンさんによる故郷チベットのお話と、チベット民謡などが披露され、盛会のなか閉会となりました。



河南

ボランティアの まちづくりをめざして

5月23日（水）、府内で34番目となる「藤井寺市ボランティア連絡会」が産声を上げました。

発足式には、藤井寺市長および大阪府市町村ボランティア連絡会会長はじめ、来賓、関係者、ボランティア約70名が参加。市内ボランティアグループがそれぞれ活動の報告、朗読やおはなしの実演、また点字器材、自助具や人形劇の用具など、日頃使用している道具類を展示するなどして他のボランティアたちと交流を深め、連絡会発足の意義を再確認しました。

ボランティア連絡会は、市内におけるボランティア活動の効果的かつ円滑な



人形劇の人形たち。この日はちよっとひと休み

- 推進を図ることを目的とするものです。が、発足にいたるまで、各ボランティアグループ代表者は他市ボランティア連絡会の活動状況や、ボランティア連絡会を結成するなどのようなメリットがあるかなど、藤井寺市の連絡会のあり方について入念に調査・検討を進めてきました。その中でメリットとして、
- ①ボランティアグループがお互いに協力すること、充実した活動ができる
 - ②関係機関に対して発言力が強くなる
 - ③市民啓発の際、より効果的なPRができる
 - ④「2001年はボランティア国際年」であることから発足するには絶好の時期

などが挙げられ、発足に拍車がかかりました。

現在では月に1度役員会を開き、「ボランティア交流会」や「研修会」など、今まで社協主体だった事業を連絡会で企画し、事業を展開しています。

朗読の実演をするボランティアグループ「ひびき」

泉州

ボランティアサロンの活性化！ 市民センターへの発展を目指して！！

今後は、市内で活躍しているボランティア全員に呼びかけ、横のつながりを持ってお互いにそれぞれの特色や活動を知り合い、力になっていくことを目指していきます。

平成13年8月24日
（金）、岬町健康ふれあいセンター・ピアッツア5において、6市3町と大阪府ボランティア・市民活動センター森所長、社協職員の参加のもと泉州ブロック交流会を開催しました。

また「ボランティアサロンの活性化」「ボランティアセンターの充実」など、それぞれの市町村が抱えている課題などを話し合い、意義のある交流会になりました。

暑い日中、大阪最南までようこそお出向き頂きありがとうございました。会場に同席頂いた方お一人おひとりに感想をと思いますが、いかがだったでしょうか。発表されたことで、まだまだ時間があれば、と思われた方がいらしたのでは。

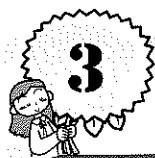
森所長のボランティア・市民活動センターの名称変更のお話もよく理解できましたし、各ボランティアさんに色々教えて頂いたこともありましたが、またお会いした時はよろしく願い致します。

次回泉州ブロック当番は貝塚市さんとお聞きしています。楽しみにしています。

今回盛り上げて頂きましたこと、本当にありがとうございます。



委員長 藤原 法子



3

笑顔とともに「ほのぼの弁当」をお届けする方大募集!

活動内容 給食(昼食)の配送、話し相手や安否の確認
日時 火曜日、水曜日、金曜日の活動可能な曜日。
 11:00頃から約1時間程度
場所 泉南市社会福祉協議会(泉南市樽井1-8-47)
 他、市内各キーステーションから対象者の方宅
沿線 JR阪和線 和泉砂川駅 徒歩20分、南海本線
 樽井駅 徒歩20分
募集対象 泉南市内にお住まいの、概ね30歳代以上の方。
 初心者歓迎
問合せ先 TEL 0724-82-1027 FAX 0724-82-1618
 泉南市社会福祉協議会(担当/中原)

Vクリッピング ボード

ボランティアをやってみよう!
 そんなあなたに耳寄りな情報満載



さあ、ボランティアしよう!

＜ご利用にあたって＞

ボランティア活動へ参加を希望される方は、事前に各団体にお問い合わせの上、条件等を話し合ってから、参加してください。

●このコーナーに記載の情報はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ovn.gr.jp/>



4

少しの時間で きれいな駅前にしよう!

活動内容 季節の花の植え替えと駅前の清掃など
日時 第1金曜日 南海本線 樽井駅
 第1火曜日 JR阪和線 和泉砂川駅
 第2月曜日 JR阪和線 新家駅 いずれも午前中
沿線 南海本線 樽井駅(第1月曜日)
 JR阪和線 和泉砂川駅(第1火曜日)
 JR阪和線 新家駅(第2月曜日)
募集対象 成人
問合せ先 TEL-FAX 0724-83-0294
 泉南市ボランティアセンター



1

福祉まつり「第22回ふれあいひろば」の ボランティア募集

活動内容 「まつり」の成功のため、その運営やコーナー(親子、生きがいなど)の企画、場内整備などのボランティアを募集します。
日時 2001年10月21日(日) 9:00~16:00
場所 上の池公園(高槻市阿武野2)
沿線 JR京都線 摂津富田駅 バス15分
募集対象 高校生以上、成人
 初心者歓迎、グループでの参加歓迎
問合せ先 TEL 0726-96-0678 FAX 0726-94-8092
 (社福)大阪福祉事業財団 高槻温心寮(担当/正岡)
申込締切日 10月15日

*「まもろう平和とくらし、つくろう住民本位のまち」をスローガンに、今年も「ふれあいひろば」を開催することになりました。多くの方でまつりを成功させるためボランティアの募集をします。ぜひ、ご参加ください



5

ケアハウス、デイサービスでの ボランティア募集

活動内容 ケアハウスにおけるクラブ活動(小物工芸、紙折)、お茶、お花等の指導やデイサービスでの外出介助、話し相手、歌や体操の指導等をしていただける方。特にご近所の方を大募集!
日時 月曜日~日曜日 月1回、週1回どちらでも可能
 10:00~12:00、14:00~16:00 デイサービスの場合は10:00~11:45、13:00~15:00
場所 プレーゴ緑地公園(吹田市千里山竹園1-29-1)
沿線 北大阪急行 緑地公園駅 徒歩15分、阪急千里線 北千里駅 徒歩12分
募集対象 専門学校・短期大学・大学生、成人、グループでの参加歓迎。高齢者の生きがいに通じるものであれば、年齢は問いません
問合せ先 TEL 06-4861-3130 FAX 06-4861-3135
 社会福祉法人 緑地福祉会(担当/丸山 博史)



2

点字の読み書きを 教えてくださる方を募集!

活動内容 高校2年生の男の子に点字読み書きの学習指導を週1回程度、1時間ずつ指導していただきます。継続活動ができ点字の解る方
日時 月曜日~日曜日 16:30~20:30内で1時間程度
場所 日本ヘレンケラー財団 盲児施設平和寮(大阪市阿倍野区阪南3-27-2)
沿線 JR阪和線 南田辺駅 徒歩6分、地下鉄御堂筋線 西田辺駅または昭和町駅 徒歩6分
募集対象 専門学校・短期大学・大学生、成人、点字のわかる方
費用 特になし
問合せ先 TEL 06-6621-4583 FAX 06-6622-2156
 日本ヘレンケラー財団 盲児施設 平和寮



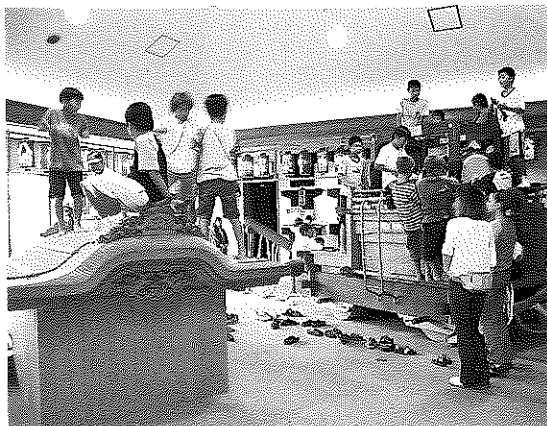
お祭りを盛りあげるユニークな NPOが誕生。

特定非営利活動法人

「岸和田だんじり祭振興会」

勇壮な祭として知られる大阪府岸和田市のだんじり祭。毎年9月14、15日の両日、市内を地車が駆け回り約60万人の人出で賑わいます。

この祭りの振興を願って、今年2月に、岸和田市商工会議所のメンバーや市民によって、特定非営利活動法人「岸和田だんじり祭振興会」が結成されました。地車がカーブを曲がる「やり回し」の名所「カンカン場」の観覧席を運営してきた人たちが中心となり、NPO法人としての活動をスタートさせたもの。

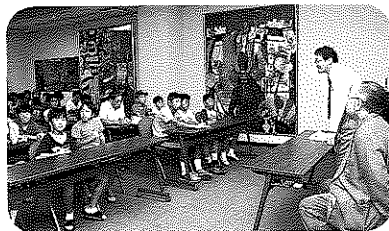


地車の上に登ったり、太鼓をたたいて「だんじり」体験

「会員は30人ほどで全員が大の祭り好き。安全に祭りを楽しんでもらうとともに、街の振興にも役立ちたいとの思いから結成しました」と、会長の奥野健三さん。

「祭りを通じて青少年の健全な育成にも取り組んでいきたい」と、8月28日には市内の小学生約100人を招いて、「遊んで学ぼうだんじり祭」をだんじり会館で開催。昭和10年代の祭りのビデオを紹介したり、子どもたちが安全に参加できるよう、「引き綱をしっかりと持とう」「世話役の指示を守ろう」などと呼びかけた後、みんなで館内を見学。子どもたちはさっそく地車の大屋根に上ったり、笛や太鼓をたたいて、一足早く祭り気分を楽しんでいました。

祭りの当日は観覧席の運営とともに、混雑の緩和をめざしてシャトルバスを運行。さらに、ごみの分別収集にも取り組むなど、祭りを側面から支える活動を今後も積極的に行っていく考えです。



情報コーナー

■YMCAキャンプ・リーダー、 体育指導補助者(研究生)募集

月に一度、または夏・冬休みなどに自然の中で子どもたちと活動していただくキャンプリーダーを募集。同時にサッカー、体操、バスケットなど、子どもや大人のスポーツ指導の補助をしてくださる体育指導補助者(研究生)も募集しています。

対象 大学・短期大学・専門学校生
研修費 体育指導補助者については
若干支給有り。交通費は支給

問合せ 土佐堀YMCAウェルネスセンター
TEL 06(6441)0895

※2001年1月から活動できる方を募集

■はじめませんか! 生きがいワーカーズ

大阪府では高齢者の生きがいづくりと就労を結びつけた活動をしています。高齢者がグループで事業を実施する場合に、事業の開始にあたって必要となる備品購入費等を助成します(グループ100万円を限度)。

問合せ

・大阪府総合福祉センター内

生きがいワーカーズ活動支援センター

TEL 06(6561)4194・4199

・大阪府高齢介護室在宅課在宅支援グループ

TEL 06(6941)0351

内線4485

■全5回 介護ボランティアによる 多文化共生 応用講座

ボランティアと地域ケア、ハングル語について学びませんか。途中からの参加もOKです。

日時 9月8日(土)・10月20日(土)の

土曜日 14時~16時30分

会場 生野区在宅サービスセンター

おかちやま

問合せ 「リアボランティア協会」
TEL 06(6717)7301

■第3回ボランティア・市民活動フ ェスティバルinおさか

「かんでんかがやきフェスティバル」と
同時開催

「大阪宣言21 広げようボランティア つなごう市民ネットワーク」に生きよう多様ないのちをメインテーマに、ボランティア活動やNPO活動に対する市民の理解を深める催しです。またステージが楽しめる「かんでんかがやきフェスティバル」も同時開催します。

日時 10月21日(日) 10時~16時

(かんでんかがやきフェスティバルは12時30分~15時30分)

会場 大阪城公園・太陽の広場

問合せ (連)大阪府社会福祉協議会・

大阪市ボランティア情報センター

TEL 06(6765)4041

・関西電力株式会社地域共生・広報室

地域活性化グループ

TEL 06(7501)0239

編集後記

記録的な猛暑だった今年の夏もようやく終わりましたが、この夏、今回特集しました大阪府福祉基金地域福祉振興助成金の制度を利用して、山へ海へと出かけられたボランティアグループもたくさんあったことでしょう。いくつか届いた完了報告書の中に、真っ黒に日焼けした笑顔がとても印象的な写真も多くありました。

さて、季節はいよいよ秋。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、いろいろどりの秋の中で、今年のあなたの秋は何色でしょうか。(N)

国を越え 世代を超えて 広がれボランティアの輪

第10回

おおさか ボランティア フェスティバル

21世紀の幕開けの今年は、ボランティア国際年。

第10回を迎えた「おおさかボランティアフェスティバル」は国際交流から地域に根ざした活動まで、さまざまなボランティア活動の広さ、楽しさを紹介します。

家族みんなで楽しめるイベントやステージもいっぱい! ふるってご参加下さい。

平成13年10月21日(日)

午前11時～午後4時 **参加無料**

会場／OBPビジネスパーク
ツイン21ギャラリー

最寄り駅／京阪・JR環状線「京橋」駅
JR環状線「大阪城公園」駅
地下鉄長堀鶴見緑地線
「ビジネスパーク」駅

先着200名様に花鉢プレゼント!

内容／

- 特別ゲスト／桑名正博(トーク&ライブ)
森田真千子(画家・世界身体障害者芸術家協会 会員)
月桃の花歌舞団(エイサー)
- コーナー／
インスタントシニア体験・森田真千子さん絵画展・
足裏健康法コーナー・国際交流コーナー・お茶席・
ボランティアバザー・手作り体験コーナー・他

赤い羽根共同募金が、この
フェスティバルの運営にも
活用されています。

同日開催

第3回

ボランティア・市民活動フェスティバルinおおさか

とき

平成13年10月21日(日)

午前10時～午後4時

会場

大阪城公園

太陽の広場

両会場で共通のスタンプラリーも
開催しています。
記念品もご用意。ぜひ挑戦してみてください!

主催 大阪ボランティア推進府民会議

後援 大阪府、大阪府教育委員会、(財)大阪21世紀協会、朝日新聞厚生文化事業団、毎日新聞大阪社会事業団、産経新聞大阪新聞厚生文化事業団、読売光と愛の事業団大阪支部、NHK厚生文化事業団近畿支部、大阪府共同募金会、日本赤十字社大阪支部

協賛 大阪府共同募金会、関西シルバーサービス協会、(有)ビィボスト、(株)中村塗装店、住友海上火災保険(株)、関西寄術連合会、(株)アステム

事務局 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 大阪府ボランティア・市民活動センター

〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54

電話.06-6762-9631

FAX.06-6762-9679



桑名正博
(トーク&ライブ)



森田真千子
(画家・世界身体障害者芸術家協会 会員)



月桃の花歌舞団
(エイサー)



水谷加奈子
(司会・タレント)



住友海上

住友海上は10月1日に三井海上と合併し、
三井住友海上となります。

安心 | 代理店